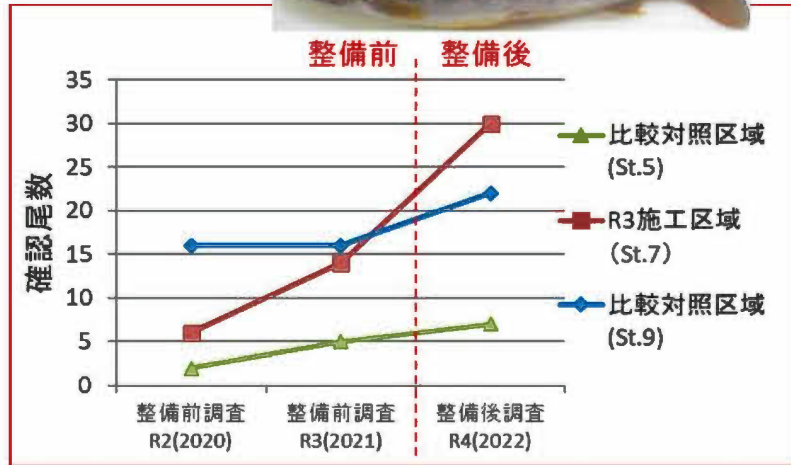


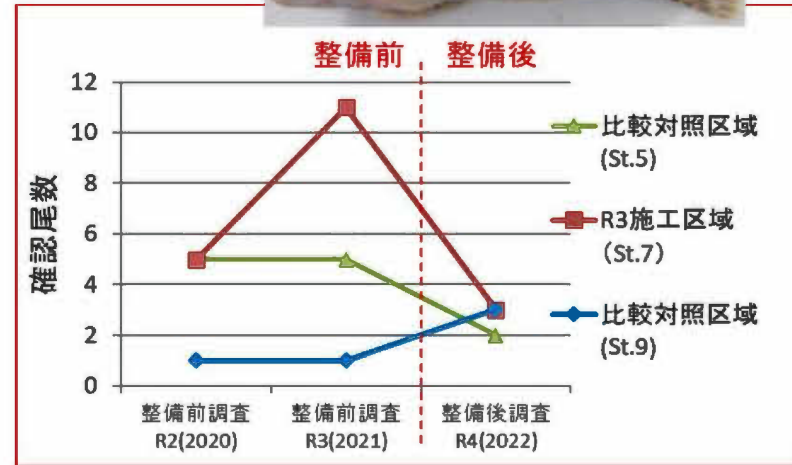
【参考2】 魚類生息状況の評価(上流地区)

令和3(2021)年度工事区間(施工後1年経過箇所) ~途中経過~

アメマス



カジカ属



【参考3】 タチヤナギ採穂場の造成と経過(上流地区)

工事の植栽工に使用するタチヤナギの採取を目的に、令和2(2020)年度に植栽試験地(採穂場)を造成。 → 令和4(2022)年度まで追跡調査を実施

大進橋下流SP12600付近右岸



試験地施工直後
令和3(2021)年3月4日



施工後約3カ月
令和3(2021)年5月28日



タチヤナギの枝葉発生
令和3(2021)年5月28日



施工後約1年10カ月
令和4(2022)年10月11日

令和2(2020)年 植栽埋幹本数	令和4(2022)年 萌芽確認本数	平均萌芽高さ m	平均根元直径 cm
32	32	2.4 (1.6~2.9)	1.7 (1.0~3.0)

- ・地中に埋めた幹の全てから萌芽発生(32/32幹)
- ・萌芽枝発生本数は計120本(令和4(2022)年10月11日時点)
- ・令和3(2021)年8月に除草実施

・ 施工から約1年10カ月で埋枝工や埋幹工に適した状態*1に成長

*1 通直で直径1~3cm・2~5年生の若い枝幹

→ 植栽後、概ね2成長期で植栽工法をできる見通しが得られた。

【参考】重要植物の保全対策(上流地区)

令和3(2021)年度工事箇所における保全対策(重要種の移植)

保全対策実施後の追跡調査:令和4(2022)年8月30日実施

実施年度	植物重要種	移植元	移植先	保全対策	保全数量	環境	確認数量
令和3 (2021)年	エゾミズタマソウ	SP12720 左岸	SP12060 右岸	個体移植	24個体	河畔林	24個体 (結実)

移植後の経過:令和3(2021)年エゾミズタマソウ移植地(SP12060右岸付近)



移植実施直後
令和3(2021)年9月29日実施



移植後およそ1年
令和4(2022)年8月30日実施 注1



移植後およそ1年(確認個体)
令和4(2022)年8月30日実施 注1

評価

個体移植した全ての個体が生存、開花・結実した
→エゾミズタマソウの保全対策として個体移植の採用可

注1) 保全対策を実施した植物重要種のモニタリングは夏～秋季に実施予定。

令和3～4(2021～2022)年度工事実施済み区間の評価

(6)とりまとめ及び令和5(2023)年度施工に向けて

①河道掘削

- 河道掘削方法は流下能力の確保及び低水路維持の観点から評価すると概ね問題はない。

②護岸工

- 河岸侵食の防止は、良好である。基本的な構造に問題はないため、今後も現地条件に合わせ最適な工種を採用していく。

③置石工

- 淵の形成、水際の多様性創出など概ね目的を達成している。今後も現地条件に合わせ採用していく。

④配慮事項

- 引き続き、モニタリングを実施し、評価・検証を行う。

第16回

藻琴川改修工事技術検討会（河道計画）

2. 議事

2-1 藻琴川上流地区

（広域河川改修工事区間）について

2-1-2 令和5(2023)年度工事実施予定区間の方針

令和5(2023)年度工事実施予定区間の方針

(1)対象区間の現状と課題及び対策工法

SP12,800～SP13,225(L=0.43km)



【対象区間の現状】

- ・流下能力が低い
- ・現況河岸の変状
- ・湾曲部に淵が形成
- ・倒木等により多様な流れ

【対象区間の課題】

- ・洪水被害の危険性
- ・河岸侵食の防止
- ・良好な淵の維持
- ・生物多様性の保全



【対策工法】

- ・高水敷の掘削、堤防設置
- ・河岸の補修(現況みお筋の修復)
- ・淵の配置計画
- ・可能な限り現況のみお筋を生かした河道計画

第16回 藻琴川改修工事技術検討会（河道計画）

2. 議事

2-2 藻琴川下流地区

（総合流域防災河川改修工事区間）について

2-2-1 令和3(2021)年度工事実施済み区間の評価

令和3(2021)年度工事実施済み区間の評価

(1)対象区間の現状と課題及び対策工法

SP6,550~SP6,930(L=0.38km)



流れが一様

【対象区間の現状】

- ・流下能力が低い
- ・河岸の侵食
- ・平水時の流れが一様

【対象区間の課題】

- ・洪水被害の危険性
- ・河岸侵食の防止
- ・魚類等の生息環境の減少

対策

【対策工法】

- ・河道掘削
- ・護岸工の設置
- ・低々水路、置石工による多様な水際・流れの創出

令和3(2021)年度工事実施済み区間の評価

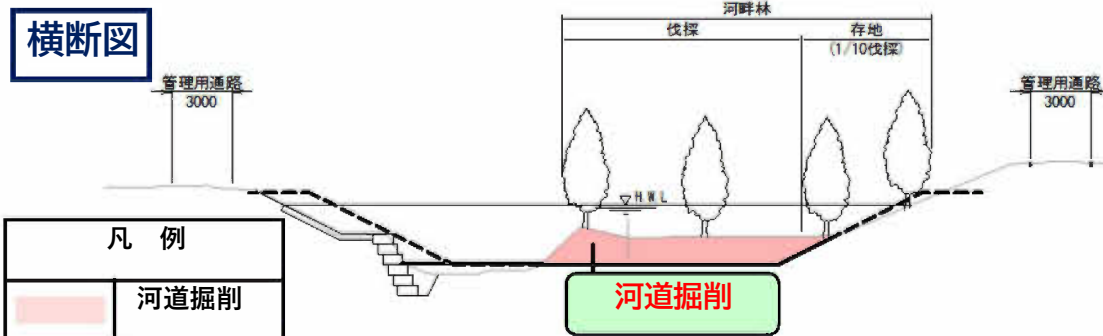
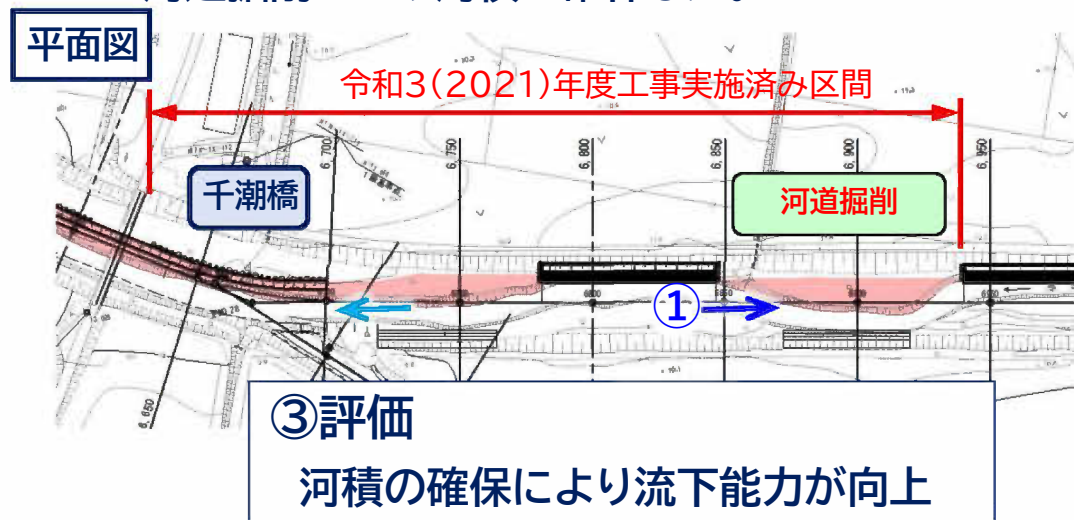
(2)河道掘削の評価

①設計の考え方

早期に治水安全度を向上させるため、暫定改修の規模となるN=1/5の河道断面を確保する。

②実施後の状況

河道掘削により河積を確保した。




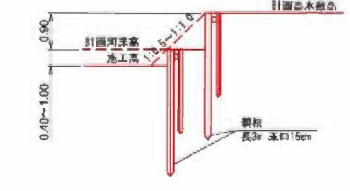

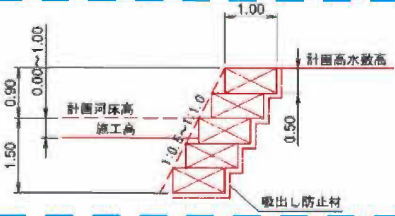



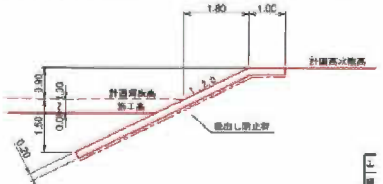
早期に流下能力を向上させるため、右岸側を先行改修

令和3(2021)年度工事実施済み区間の評価

(3)護岸工の評価

①設計の考え方

河岸侵食防止を目的に護岸工を設置する。護岸工法に関しては、技術検討会で得られた知見から**段柵工**を基本としているが、当該施工区間は岩河床のため親杭の打ち込みが困難であることから、藻琴川の実績を考慮し、**かご多段積み工**を採用した。

工種	イメージ写真（藻琴川での事例）	標準図	採用箇所
段柵工 栗石粗朶工			親杭が打ち込める箇所
かご多段積み工 かごマット工			段柵工の使用が困難で 転石・流木の影響がない箇所
練り石積み工 練り石張り工			段柵工、かご工の使用 が困難な箇所
連節ブロック工			構造物周辺・ 既設ブロック敷設替え

基本工法

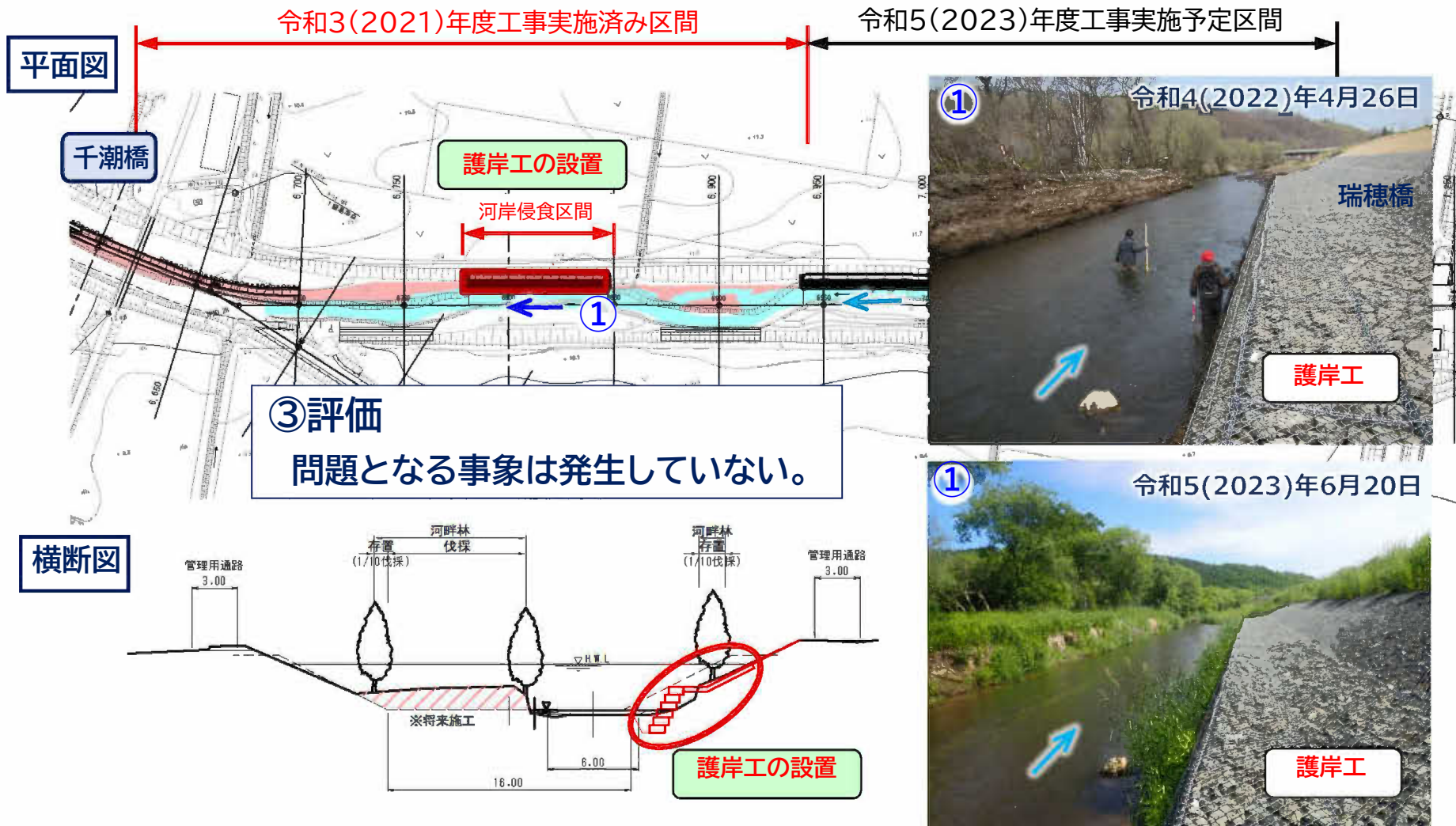
親杭の打ち込みが困難な場合に使用
【採用】

令和3(2021)年度工事実施済み区間の評価

(3)護岸工の評価

②実施後の状況

護岸工の設置により河岸侵食はみられない。

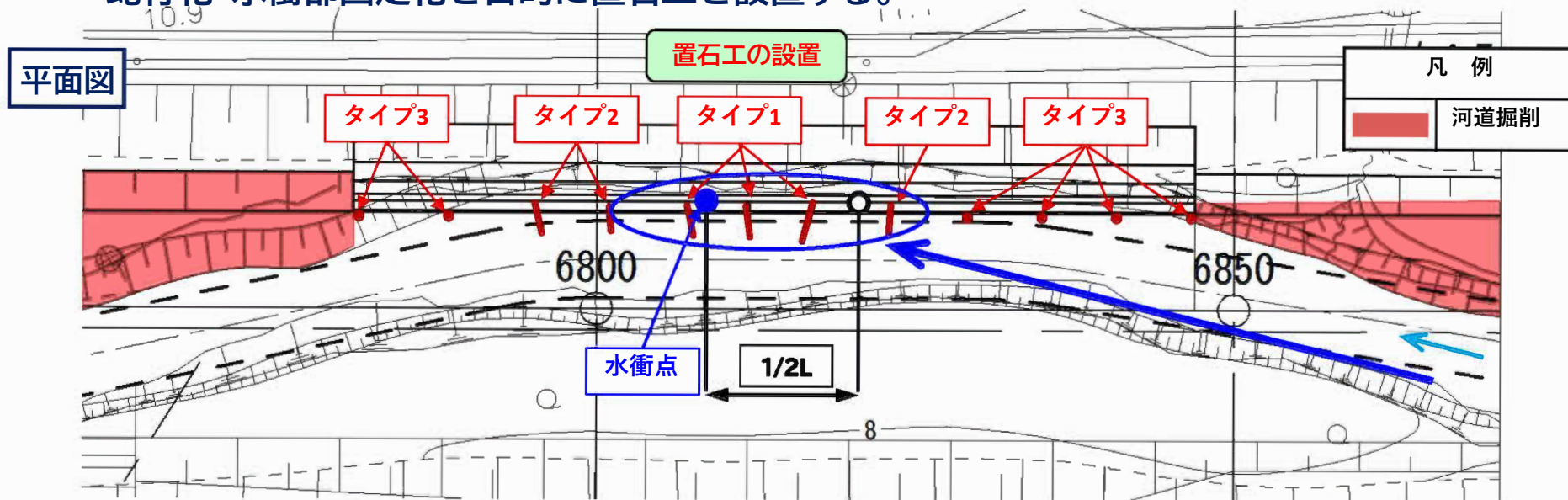


令和3(2021)年度工事実施済み区間の評価

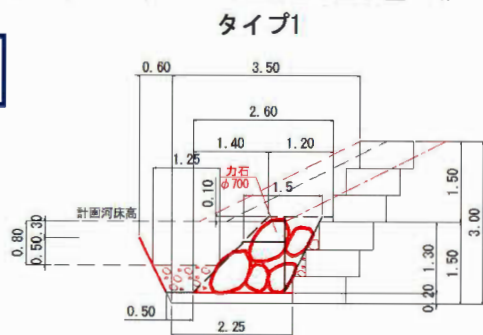
(4)置石工の評価

①設計の考え方

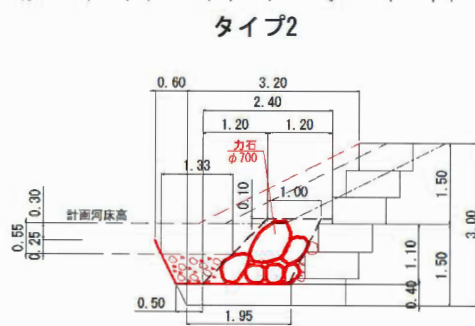
流れが一様となりやすい護岸工前面に深みの維持または水際の多様性創出及び低々水路の蛇行化・水衝部固定化を目的に置石工を設置する。



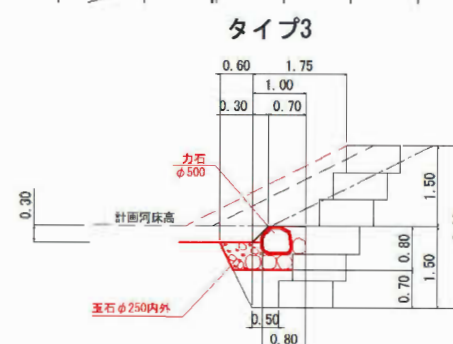
断面図



深みの創出・維持
(平水時最深水深0.6m程度以上)



流れを岸から離す



水際の変化をつける

令和3(2021)年度工事実施済み区間の評価

(4) 置石工の評価

② 実施後の状況及び評価

- ・深みの形成・緩流水域の発生により多様な水際が維持された。また、露岩部が縮小し、環境面での効果が発現されている。
- ・低々水路の維持及び護岸工前面の流速が低減され、治水面での効果が発現されている。

